

# 関高の名古屋大・岐阜大対策 & 合格体験記

関高生の人気校といえば、やはり地元の名古屋大学、岐阜大学です。

名古屋大は東海地区のトップ大学。世界水準のハイレベルな研究や、高い就職率は魅力的。文科省指定のスーパーグローバル大学でもあります。

岐阜大学には、伝統の医・工・教・応用生物(旧農学部)に加え、文理融合型の地域科学部があります。

関高では、名大・岐大入試を突破するため、土曜講座や補習、模試などの対策を行っています。特に、毎年7月に行われる岐阜大学・名古屋大学入試問題研究会には、多くの生徒が参加します。



岐阜大学の英語講座の様子



岐阜大学講座を受講する生徒



名古屋大学の国語講座の様子



河合塾による受験対策講座

**まずはその気になること。そして先が見えてくるまで努力を続けること。**

関高では、授業、課題、補習、土曜講座、模試、個人指導を通じ、合格に必要な力を身に付けることができます。

次ページからは、最後まで頑張り抜き、栄冠を勝ち取った卒業生の言葉を紹介します。

# 名大&岐大合格体験記(2013・14・15より)

名古屋大学 理学部  
周 戸 大 季  
(白鳥中学出身)

## 1 志望は高く、将来についてよく考えること

私は、はじめ医学部を志望していました。しかし、3年生の夏休みに「へき地医療研修会」に友人と参加したこと、また、「化学グランプリ 二次選考」への進出の二つによって自分が本当にやりたいことが“研究”だということに気が付きました。この経験から言えることは、志望を高く持っていれば後でも修正がきくということです。自分の夢が見つかっているに越したことはありませんが、まだやりたいことが見つからない人でも、志望は高く持つと良いと思います。

## 2 科学の甲子園、化学グランプリでの刺激

私は、理科が大好きで2年生の時に「科学の甲子園」、3年生の時に「化学グランプリ」に参加しました。これらに参加したことによって、仲間と共に考えることの楽しさを学び、さらに、学習に対する意欲が非常に高まりました。そして、何より、関高の外に強者がこんなにもたくさんいると知ったことは、最大の刺激になりました。いつもの模試などとは一味違った緊張感もあり、必ず自分の刺激になると思うので、1年生でも、2年生でも、果敢に挑戦すると良いと思います。

## 3 日々の学習の重要性

私自身、2年生の時は特に、模試の成績は思うように伸びませんでした。しかし、諦めずに毎日の授業を大切にしてコツコツ学習を積み重ね、分からないことはその日に解決するよう心がけました。よく先生方が「現役生は最後に伸びるんだ」とおっしゃっておられましたが、受験を終えた今ではそのことを実感しています。

最後に、何事においても「謙虚に努力」が大切です。

自分を信じて、頑張ってください。応援しています。

自分の3年間を振り返り、少しでも参考になればよいと思ってこれを書きます。

#### ・復習が一番大切

どれほどたくさん問題を解いても、同じ問題が解けなければ成長していないのと同じです。問題を一瞬見ただけで解答が思い浮かぶくらい何度も同じ問題を解くのがいいと思います。色々な問題集に手を出したくなりますが学校のものを完璧にするだけでもなんとかなることが多いです。

#### ・計画をしっかり立てる

計画を立てる中で1つの大きな要素はセンター試験です。大学によって配点比率が異なるので、取り組み始める時期は人それぞれですが、いつから始めるのかを明確に決めておかないと、隣の人がセンター対策を始めていたときに焦るということがよくあります。また、高3の冬休みぐらいはセンター対策に絞るのがよいと思います。冬休みも2次対策をしてセンターで失敗するということがよくあります。

#### ・学校のテストを大切にす

実際に、古文単語や英単語は学校の小テストで十分足ります。また、定期テストは、大学受験という1つの大きな目標に向けた、小さな目標としてとても有効です。その上成績が良ければ推薦入試という選択肢も生まれます。

#### ・模試の判定を気にしない

模試の判定は全くあてになりません。A判定でも不合格、C判定でも合格ということは珍しいことではなく、むしろ普通です。A判定とB判定は驕りを生み、C判定とD判定とE判定は焦りを生むだけです。模試の意味は判定を見て一喜一憂することではなく、解説をみて復習することにあると思います。

高校3年間の中で「勝負の〇〇」という言葉はいったい何回聞いたでしょうか。勝負の夏休み、勝負の冬休み、勝負のプラチナ50日…上げればきりがありません。これは、3年間すべてが勝負であるということの意味するのではないか、と思えてなりません。

自分を信じて頑張ってください。

僕は自分の体験をまとめました。参考になるか分かりませんが、自分の勉強について3つに分けて書きます。

## 1.授業

学校の授業で教わることは全て自分の学力に繋がります。毎回の授業を真剣に受けるよう心がけました。僕は塾に通っていなかったなので、先生に直接教わる機会を特に大切にしました。習った内容を忘れないために、休み時間には授業について友達と話しました。また、授業の疑問点はそのままとせず、友達や先生に相談しました。毎日の授業を試験の点数に繋がられるように疑問をつぶすことは大切です。

## 2.学校外の勉強時間

僕は1年生から3年生の文化祭まで吹奏楽部に入っていました。しかし部活のせいで勉強時間がないといったことは、僕の場合なかったと思います。休日の部活も勉強時間を圧迫する程ではありませんでした。一番の敵は自分の怠けだったので、ダラダラと時間がすぎないように、自分で一日のノルマを決めました。

しかし、徹夜はしませんでした。体を壊すのは嫌だったので、6時起き、11時就寝で三年間過ごしました。生活のリズムを変えないために、部活を引退した後もその時間を維持しました。

## 3.自宅の勉強内容

基本的に学校の課題を最優先、次に小テスト対策をやりました。課題は授業の進度と合っていることが多いので、それで知識を定着させました。小テストの単語帳は何度も繰り返し、英語だったら音声も活用すると記憶に残りやすかったです。三年生の後半になると、学校の課題や小テストは少なくなってきました。その時僕が力を入れたのは基礎です。

まずセンター試験は1,2年に習う範囲の基本が重要です。そのため問題と並行して基礎を固めました。その時は全体をまんべんなく対策したうえで、苦手教科に力を入れるといいです。センターで合計得点を上げるには、点数が低い教科を上げるのが効果的だと思います。僕も苦手な地理を本番で何とか平均点にすることができました。

二次試験対策には多くの問題を解くのがいいと思います。定期テストや外部模試を解けるようにしたうえで赤本に取り組みました。三年にはたくさんのテストがあり、何度も見直せません。ミスした所を早めに解けるようにすると次につながります。

最後にひとつ。

受験が近づくと不安になることもありますが、僕は友達や家族との会話で心を落ち着け、勉強を続けました。一人一人が自分に合った勉強で進路実現ができることを祈っています。

僕は合格したとき本当に三年間コツコツ勉強してきて良かったと感じました。やっぱり大切なのは「継続」ではないかと僕は感じています。この話を三年生が読んであまり役にたつか分かりませんが、自分が思ったことを書いてみようと思います。

僕らが先生から言われた入試前に大切なことに体調万全で試験に臨む。自信を持つ。などということがありました。

確かに三年になって必死に勉強して受かっていく人も多くいると聞きます。それだけの強い意志と体力があればそれで十分かもしれませんが、自分はちょっと夜更かしするだけですぐ疲れがでるタイプで、夢もあまり具体的でない僕にとって一年生からの継続が一定のスタイルを保って体調を崩さず合格した力になっているのは間違いないと思います。

僕が特に継続が重要だと痛感したのは英語でした。自分は電車通学だったためその時間を使って単語帳などは毎朝必ず見る習慣をつけ結構な単語力をつけ、学校の予習や塾（自分は公文）の宿題の英文を毎日淡々と読んで文に慣れることが出来ました。しかし、三年生になって理科をもっと強くしたい、とか部活も悔いのないように終わりたいと思って、学校の予習も一時なくなったこともあり、英語は大丈夫だろう、と思って読む英文の量が減って週末にまとめてやってみた時、自分の読む速さが一気に落ちたのを感じました。これは決して部活をやめろと言いたいのではありません。苦手強化に手を出してもある程度は自信があることでも毎日少しでもこなしたほうがいいと自分は言いたいのです。なんでもやり抜くことが学力向上はもちろん今のレベルから落ちるのは必至です。確かにそのおかげで理科は速くなる授業スピードにもついていけましたが、英語は比較的できる人も多かったのがそれが欠点となるのは目に見えました。

秋のある名大オープンで英語だけ 3 割 5 分しかとれなかった結果をみたときには… で、自分はその時からセンター対策ということもあり長文を読む速度はある程度上がりました。でも名大の長文が何とかこなしてきたのは本当にギリギリ…正直本番も自分の解答に不安は結構ありました。一方でそこからセンターの前 2.3 週間以外継続した英作文は先生の添削、自習のテキストで随分いろんな日本語に対応できるようになり多分本番で自分の得点源になったと思います。

結果自分は、継続は学力向上にはもちろん、自信をもつものにも有効だと思います。そして毎日少しの時間でも続けたことがあることが多ければ一つ教科で失敗しても、本番でまだ希望をもって次に進めるのではないのでしょうか。

まだ勉強なんて早い、と思っている一二年の皆さん、少し余力があるなら今からまずは一つ、何か始めてみてください。そしてそういうことを増やして続けられるようにして行って下さい。自分は計画帳というノートを作って続けられるよう計画を立てることで続けられました。

後輩のみなさん、次はあなたたちが頑張る番です。

名古屋大学 文学部

河野百音

(双葉中出身)

私はこの度、名古屋大学文学部に合格することができました。ここでは私の3年間の高校生活を振り返ってお話ししたいと思います。

私は1年生の終わりに塾をやめました。塾の時間が遅く、規則正しい生活が送れなかったことが理由です。塾に疲れて授業中寝てしまったり、塾の宿題に追われて学校の学習が疎かになってしまっただけでなく先輩方も利用しており、受験に向けて黙々と勉強している姿が生で見ることができるため学習意欲が向上しました。また、分からない部分があったときは放置するのではなく、自ら職員室に行き先生に個別で教えてもらいました。最初は恥ずかしい気持ちもありましたが、慣れてしまえば自分にとってプラスになることしかありません。分からなかった部分が解決し、 $+\alpha$ のことも教えてもらえました。その際に受験の相談もすることもありました。先生方は嫌な顔せず、親身になって話を聞いてくださるので皆さんも進んで聞きにしてみてください。

次に、苦手科目の克服は早い段階からやっておきましょう。好きな科目、得意科目を勉強するのは簡単です。苦手科目は勉強していてもなかなか手が進まないし、途中で嫌になることが多いです。だからこそ、早めの対策が重要になります。試験が近くなるにつれて気持ちが焦ってしまい、なかなか正解できない苦手科目を勉強するのはさらに嫌になります。そのため、苦手だと少しでも思ったら重点的にやるべきです。私は数学が苦手でした。だから、考えて分からない所があればすぐに先生に聞きにいきました。しかし、聞いて分かったから大丈夫というわけではありません。今度は自力で解いてみるのが重要です。聞きに行った時分かっていたけれど、実際自分で解いてみると出来ないこともあります。その時はもう一度確認しましょう。また、私がお勧めしたいのは、自分専用のノートを作ることです。授業中の問題や模試で間違えた部分は必ずノートにまとめていました。このノートはスキ間時間や試験直前にみると効果的でした。ぜひ、作ってきてください。

最後に、受験勉強はやはり大変で途中で諦めたくなる時が多々あります。そんな時は友達と受験について語り合うなど息抜きをしてください。今感じている苦しみが一番分かるには同じ受験にむけて取り組んでいる仲間です。聞いたことがあると思いますが、**受験は団体戦という言葉は本当です**。これから、**大変だとは思いますが充実した高校生活を送ってください**。皆さんの進路実現を祈っています。

名古屋大学 経済学部  
野田 瑞貴  
(緑ヶ丘中学出身)

私は志望校合格という最高のかたちで受験を終えることができました。受験を通して思ったことを少し書きたいと思います。私なりの方法ですが、3年間塾や通信教育を全く使わずに、学校だけに頼って勉強してきたので、参考になればうれしいです。

### 1.自習室を活用する

私は家で全く集中できない人間だったので、いつも自習室を使っていました。周りの頑張っている人の存在は結構大きいです。自分も自然と集中でき、効率のよい勉強をすることができました。

### 2.コツコツ積み重ねる

いろんな勉強スタイルがあると思いますが、私はコツコツが最強だと思っています。受験本番での自信にもなるし、なにより試験で実力としてきちんと発揮されるからです。勉強癖のない人は、早めに習慣化しましょう！

### 3.模試の反省をやる

反省＝解答の確認ではありません！自分がどうして間違えたのか分析して、理解をするということが大事です。次同じ問題に出会ったときに完答できる、を目標にしましょう。3年生の秋は踏ん張り所です。

### 4.演習で確実に

分かったつもりだったのにいざ問題を解こうとしてもできないということ、経験したことはないですか？特に数学は要注意！それに演習はやっただけ力になるので、余裕があればどんどんやったほうがいいと思います。

私は実はセンターで失敗して D 判定（総合は C）をとってしまいました。でも諦めきれずそのまま志望校に出願しました。ただ二次試験までの一か月は本当にきつくて、みんなにはたくさん励ましてもらいました。受験は団体戦とよく言いますが、仲のよいクラスで良かったと本当に思いました。こういう点でも学校行事は大切です！

最後に、友達、先生、家族、たくさんの人に支えてもらいました。本当に感謝しています。後輩のみなさんも、つらいこともあると思いますが自分が最後に笑えるように、頑張ってください！

僕は岐阜大学工学部機械工学科知能機械コースに、前期で合格しました。僕が受験を終えて、特にみなさんに伝えておきたい3つのことについて書きます。

### 1 授業を大切にし、学校を有効活用すべし！！

授業中、居眠りをしたり他の教科の勉強をしている人はいませんか？もしいるのだったら、しっかり授業を受けた方がいいです。勉強をやる上で基礎が一番大事です。基礎が頭に入っていない人が、応用問題をやっても何も意味がありません。授業では基礎を分かりやすく丁寧に教えてくれるので、授業を大切にしましょう。授業を真面目に受けていれば自然と学力もついてきます。

次に、家では集中して勉強できない人はいませんか？そんな人は、学校で勉強しましょう。実は僕も、家で集中できない人だったので、学校の自習室や図書館をよく利用しました。また学校で勉強していて分からない問題があったとき、すぐに先生に質問行けたので効率よく勉強できました。それと平日補習や二次対策特別補習などは積極的に受けるとよいですよ。

### 2 部活や学校行事は積極的に参加すべし！！

僕は3年生の5月まで部活動に入っていました。しかし3年間、勉強ができないという理由で、部活を辞めようと思ったことはありません。逆に、勉強のストレスを部活動で発散できたので、続けていて良かったと思っています。また部活動を通して、最高の友達ができました。その友達は受験で悩んでいるとき相談にのってくれたりしました。部活動をやって損をすることは何もないと思います。逆に得をすることが沢山あると思うので、今部活動を辞めようかと悩んでいる人は辞めずに続けてください。

### 3 最後の最後まで諦めない！！

「受験は最後の最後まで諦めなかった人が勝つ」とよく言われます。僕はこの言葉は本当に正しいと実感しました。僕はセンター試験で失敗しました。そして私立受験でも3つ受けて3つとも落ちました。その後、出願した前期岐阜大学の倍率がなんと5.8倍……。

僕は「もう無理だ……」と絶望していました。浪人はしたくなかったので、専門学校にでも行くか……と諦めかけていたとき、担任の先生や友達が励ましてくれました。そのおかげで立ち直ることができ、「何が何でも岐阜大学に行く！！」と強い思いになり、その日以降、毎日学校で勉強しました。その頃の睡眠時間は3時間/日でした。その結果、岐阜大学に合格できました。どん底からの合格だったので嬉しすぎて泣きました。今でもあのときの感動は忘れられません。僕は受験を通して、諦めなければ、必ず良いことがある！ということ学びました。みなさんも僕のような状況になっても、最後まで諦めないでください。必ず最後に良いことがあります！！

そして最後に、僕が岐阜大学に合格できたのは、先生・友達・家族の支えがあったからだと思っています。本当に感謝しています。また、後輩のみなさんが第一志望に合格できることを願っています。

岐阜大学 教育学部  
福田 はる か  
(双葉中学出身)

高校で過ごした3年間は中身の濃いものとなり、あっという間に終わってしまいました。受験を終えた今、達成感でいっぱいです。参考になるかは分かりませんが、私が3年間やってきたことを書かせてもらいます。

私は関高校に合格できたことも奇跡だと思ったくらい、勉強が好きではなかったし苦手でした。だから毎日ある小テストや週末課題、定期テストは苦痛だったけど、周りには頭のいい人ばかりだし、逃げられないので置いていかれないように必死でやり抜きました。1年生から3年生までそれらを疎かにしないでコツコツ継続した結果、その小さな積み重ねのおかげで多くの単語や文法などを覚えられ自信にも繋がりました。いろいろな教材に手を出さず、1冊をやり切ることも大切だと思います。授業中は、先生が大事だとおっしゃったことはメモをして、あとから復習するようにしていました。受験本番でもそこでメモをしていたことが出たのでやって良かったと思います。

私は実はセンターで思うように点が取れず、第一志望校に2次試験の出願ができませんでした。だから、2次試験は岐阜大学に出願することになったのですが、オープンキャンパスにも行ったことがなく、合格した今でさえ少し不安があります。だから、1、2年生のうちに広い視野で自分が本当にやりたいことや就きたい職業を見つけ、できる限りいろんな大学のオープンキャンパスに行った方がいいと思います。モチベーションも上がり、学習意欲が湧いてきます。

試験本番の日、やって良かったと思ったことを皆さんに伝えたいと思います。私は試験会場には、今までやってきたことに少しでも自信が持てるように、使い込んだ単語帳や大事だと思ったことを自分なりにまとめたノートを持って行き、これを試験前に試験官が「教材をしまってください」と言うまでできる限り頭に叩き込みました。いざ、問題を見てみると「さっき見た!」と思う問題がいくつも出てきて驚きました。最後の悪あがきは必要だし、最後まで点数が伸びる可能性があると思います。

不安な気持ちを全く持たずに受験に臨む人はきっと少ないと思います。実際、私も友達も試験前は気持ちが落ち着かず、「不安しかない」と口をそろえて言っていました。しかし友達と話している間に、皆同じ状況に置かれているのだから、緊張するのは自分だけじゃなく、緊張なんてしない方が難しいと思うと、気分が落ち着いて不安にのまれることなく問題を解くことができました。受験は自分との戦いです。一旦できないと思ったことは本当にできなくなってしまうので、自信を持って無理だと思ったことも諦めないでやり抜くことが大事だと思います。精神的につらい時期もありますが、切り替えてポジティブに物事を考えることで弱い自分の気持ちに勝つことができるはずです。

最後になりますが、今まで支えてくださった先生方、友達、家族には本当に感謝しています。皆さんも後悔のないように受験勉強に励んで下さい。勉強の他にも部活や関高祭などの行事を全力でやり切って思い出に残る充実した高校生活を送って下さい。皆さんの健闘を祈ります。

3年間の自分を振り返って思ったことを書きます。

1つ目は、部活についてです。私は3年間吹奏楽部に所属していました。辛い事もたくさんあったけど9月まで続けてこられたのは「絶対最後まで続ける」という意志と周りの人たちの支えでした。続ける意志さえあれば、必ずできます。周りには、たくさんの支えてくれている人がいます。もし今部活を辞めようか続けようか迷っている人がいるなら、もう一回自分がどうしたいのか考えてみてください。周りの人に相談してみてください。

2つ目は、進路決定についてです。私は中学2年生のころからずっと英語の先生になるのが夢でした。その時の担任の先生の出身大学が岐阜大学だったので、自分もそこに行こうとずっと思ってきました。高校に入ってから、大学に入るのはそんなに簡単じゃないとわかったけど、もう岐阜大学しか行く気がなかったので、数学も捨てずに頑張りました。英語の先生にはなれないけど、先生になるという夢を叶える第一歩を踏み出すことができました。夢を持っている人は、その夢を大切に、それを叶えるために自分のいく道を選んで進んでいってください。

3つ目は、勉強についてです。まず、塾についてですが、私は親に楽器を買ってもらったので、塾へは行かないことに決めていました。全然勉強に身が入らなかった時、やっぱり塾に行こうかな、と迷ったこともあります。行かないと決めたので行きませんでした。行かなくても家でどのペースでやれたので結果的によかったです。塾へ行かなきゃ大学に行けないわけじゃないので、塾へ行かなくても自分のやり方を探して頑張ってください。次に、学校の授業についてです。学校の授業は本当に自分のためになります。また、私は夏に受けた模試で先生に心配されるほどとんでもない点を取ってしまって、先生が復習の補習授業をしてくれました。そのおかげで、本番では最低点を40点近く上回る点をとることができました。他にも放課後や **Over the rainbow** などの補習授業も参加しました。3年生になってから「もっと授業をしっかり聞いておけばよかった」と後悔することがないように、今から授業に真剣に取り組んでください。

受験生を終えて、強く思ったのは、周りの人の支えでここまでやってこられたということです。お世話になった先生方、友達、先輩後輩、みんなに感謝しています。ありがとうございました。

みなさんも周りの人を頼ったりして、頑張りすぎずに頑張ってください。